

令和4年千葉市教育委員会会議  
第10回定例会会議録

千葉市教育委員会

# 令和4年千葉市教育委員会会議第10回定例会会議録

日時 令和4年10月19日(水)  
午後2時30分開会  
午後3時17分閉会  
場所 第一・第二会議室

出席委員 教 育 長 磯野 和美  
委 員 小西 朱見  
委 員 藤川 大祐  
委 員 竹田 賢  
委 員 高津 乙郎  
委 員 大山 尋美

## 出席職員

教 育 次 長	宮本 寿正	学 事 課 長	栗和田 耕
教 育 総 務 部 長	香取 徹哉	教 育 指 導 課 課 長	樋口 雅也
学 校 教 育 部 長	鶴岡 克彦	教 育 支 援 課 長	小田 將史
生 涯 学 習 部 長	佐々木敏春	保 健 体 育 課 長	酒井 隆夫
学校教育部参事(教育改革推進課長事務取扱)	伊藤 淳	教 育 セ ン タ ー 所 長	川名 正雄
中央図書館長(管理課長事務取扱)	中島 千恵	養護教育センター所長	久保木 修
総 務 課 長	山田 利雄	生 涯 学 習 振 興 課 長	内海 豊
企 画 課 長	望月 宏次	文 化 財 課 長	佐久間仁央
教 育 職 員 課 長	吉田 悦子	総 務 課 総 括 主 幹	桑田 秀幸
教 育 給 与 課 長	松永 信隆	総 務 課 課 長 補 佐	志賀 二郎
学 校 施 設 課 長	堀 明德		

書 記 総務課総務班主査 猪飼 恭平 総務課主任主事 三ヶ尻愛子  
総務課主任主事 中台陽一郎

- 1 開会  
磯野教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立  
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名委員の氏名  
磯野教育長より竹田委員を指名
- 4 会期の決定  
令和4年10月19日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 会議録の承認  
令和4年第2回臨時会会議録を全委員異議なく承認
- 6 議事日程の決定  
議事日程を全委員異議なく決定
- 7 議事の概要
  - (1) 報告事項  
報告事項(1) 令和4年第3回千葉県議会定例会について  
山田総務課長より報告があった。  
報告事項(2) 第65回千葉県小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について  
樋口教育指導課長より報告があった。  
報告事項(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について  
川名教育センター所長及び樋口教育指導課長より報告があった。
  - (2) 議決事項  
議案第39号 千葉県立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則の一部改正について  
栗和田学事課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
  - (3) 発言の要旨  
報告事項(1) 令和4年第3回千葉県議会定例会について  
磯野教育長 報告事項(1)「令和4年第3回千葉県議会定例会について」、総務課長、説明をお願いします。  
山田総務課長 報告事項(1)「令和4年第3回千葉県議会定例会について」報告します。  
議案書の1ページをお願いします。  
まず、「1 会期」ですが、本定例会は9月8日から10月6

日までの会期で、議案質疑、教育未来委員会、代表質疑、決算審査特別委員会分科会、一般質問などが行われました。

次に、「2 提出議案等の審議状況」ですが、(1)から(3)の議案については、教育未来委員会の審査を経て9月21日の本会議において可決されました。

(4)については、9月21日に追加議案として上程され、同日の本会議において小西朱見氏を教育委員に任命することについて同意されました。

(5)、(6)については、決算審査特別委員会分科会の審査を経て、10月6日の本会議において認定されました。

次に、「3 議案質疑・代表質疑・一般質問」です。

まず、「(1) 議案質疑」ですが、3人から通告があり、うち1人から教育委員会に関する質疑が行われました。

「(2) 代表質疑」については5つの会派から通告があり、全ての会派から教育委員会に関する質疑が行われました。主な質疑の内容は記載のとおりです。

「(3) 一般質問」では30人から通告があり、うち12人から教育委員会に関する質問が行われました。主な質問の内容は記載のとおりです。

千葉市議会定例会に係る報告は以上になります。よろしくお願いいたします。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

## 報告事項(2) 第65回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について

磯野教育長 報告事項(2)「第65回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について」、教育指導課長、説明をお願いします。

樋口教育指導課長 報告事項(2)「第65回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について」、議案書3ページ、4ページに沿って報告します。

「1 期日」、「2 会場」ですが、9月10日から12日までの3日間、きぼーる1階のきぼーる広場と千葉市科学館を会場に開催しました。この総合展【科学部門】は、夏休みに児童生徒の取り組みや自由研究の科学工夫作品や論文の優秀な作品を一堂に展示し、その成果を公開するものです。過去2年間は感染症予

防のため実施できませんでしたので、3年ぶりの開催となりました。

「3 出品点数」ですが、各学校から選ばれた作品総数は979点です。その中から209点を推奨として選出し、さらにその中の94点を10月15日から16日に千葉県総合教育センターで行われた千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品しました。

「4 会期中（3日間）の入場者数」についてですが、今年度は感染症対策として出品者及びその家族以外の入場希望の方は千葉市電子申請サービスを利用し、事前申込みをした上で来場していただき、3日間で3,802人の参加者となりました。

「5 展示」ですが、十分な広さがあるきぼ一広場には小学校の全学年の科学論文を展示しました。その際、昨年度千葉市教育みらい夢基金の活用により購入した展示台を使用しました。これにより、展示スペースが確保できたため、児童生徒の作品が重なり合ったり、ぶつかり合ったりすることなく、整然と並べることができました。7階企画展示室には、小学校全学年の工夫作品、8階科学実験室には中学校の科学論文及び工夫作品を展示しました。様々な角度から観察や実験を行い、科学的な手法に基づいて探求した論文や、実用的なアイデアを取り入れた工夫作品が展示されました。一つ一つの作品を感心しながら熱心に見入る人々の姿が見られました。

4ページ、「6 教育長賞受賞者の作品について」は資料をご覧ください。

来年1月21日土曜日から29日日曜日には総合展第2部（書写、図画工作・美術、家庭、技術・家庭、特別支援教育部門）を開催する予定です。その折にはまたご報告させていただきます。

以上で報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

藤川委員 感想を申し上げたいと思います。会場に見に行かせていただきました。何よりも3年ぶりにこのように開催できたことは、すばらしいことだと改めて感じた次第です。ご覧になっている方々の様子も非常に熱心でありましたし、展示されている作品の質も非常に高く、充実したものであったと思います。

特に印象に残ったのは、1人1台端末環境がやっと実現して、ギガタブを効果的に活用していると思われる発表が非常に目立ったということでもあります。例えば資料の作成をコンピュータで

きれいに作ったり、あるいは写真や動画を、ギガタブを恐らく活用して撮影して出していたり、今後はさらにプログラミング等を生かすものも出てくるか、というようなことを期待しながら見せていただきました。

これも先生方のご負担が大変なものがあるのではないかと推察いたしますが、千葉市でこれだけ科学作品が集まって、それを多くの方が見るということは大変貴重なことでもありますので、どうか長期に渡ってしっかり維持ができるように体制を整えて、来年度以降にも繋げていただければと思います。ありがとうございました。

小西委員 私も拝見させていただきまして、今ご説明があったとおり、今年作品と作品が重なり合うことがなかったので、とても見やすいと感じました。来年度以降もぜひそのようなかたちでお願いできればと思います。

今年やはり、藤川委員がおっしゃったようにギガタブを活用した作品や、SDGsやエコについての作品が多いというように感じました。科学工夫作品には手を触れてはいけないとありまして、大人は細かい説明文を見れば大体イメージがつくのですが、どうしても子どもは作品のイメージがわきにくいので、全ての作品というわけにはいかないと思いますが、教育長賞や科学館賞のような優秀な作品だけでも、例えば動画等を撮って流しておくなどして、子どもたちに作品の内容や工夫点が分かるような形で展示いただければ助かります。よろしくお願ひします。

樋口教育指導課長 貴重なご意見いただきましてありがとうございます。また、ご視察いただきまして本当にありがとうございました。小西委員からいただいたご意見の中で、科学作品の動き等が見られるようなというご意見をいただきました。これについては、委員ご指摘のとおり確かに科学工夫作品は動きを見ることによって、その作品のすばらしさがより伝わるものがほとんどです。この点に関しては既に検討に入っておりまして、例えば会場にモニターを置いて動画を流す、あるいはタブレット等を置いて作品の動きを見られるようにする、このようなことが次年度以降、行われるように検討を始めているところです。ご意見ありがとうございました。

高津委員 本当にすばらしい科学展をありがとうございました。藤川委員、小西委員と似ているのですが、やはり小学生は本当に子ども

らしい着想の作品、あるいは中学生はもちろん、小学生の高学年になると、私には思いつかないような発想、あるいは着想で発展させているという作品が多かったかと思います。

3年ぶりということで、この2年間はもちろん私は見ていないのですが、ほほ笑ましい光景に会いました。多分おばあちゃんだと思うのですが、小学校1年生か、来年小学生になるような小さい子を連れて、小学校1年生の部門と一緒に見ていて、おばあちゃんらしき人が、「いいかい、よく見てごらん、来年頑張っておそうね」と。これはこの展覧会の一つの大きな成果であるなと思いました。

それから、先ほど樋口課長から県の審査があったという報告がありました。新聞を見ましたが、千葉市では、中学校の科学論文の部において、県知事賞を緑が丘中学校の生徒が受賞していましたし、特別賞6つの中で千葉大学教育学部附属中学校の生徒が受賞していたのですが、千葉市内の学校が3つ受賞し、すばらしいなと思います。これからまた全国展があるのではないかと思います。こんなにすばらしい中学生の作品がこの日に見られたということは大変幸せです。ありがとうございました。

大山委員 私も見させていただき、すばらしい作品があるなと思いました。ただ、少し思ったのは、県に出すときに論文と作品のサイズが決まっているのですが、それを超えてしまう大きさの作品が結構ありました。とてもいい作品や論文でもサイズが大きいものがあったので、そこが気になったのですが、規定を超えているものでも県に推薦をしているのでしょうか。それとも、そういうものを省いて推薦を出しているのでしょうか。

樋口教育指導課長 県への出品については、やはり規定に沿った提出となっています。

大山委員 それでは、とても残念だと私は見ていて思いました。すばらしい作品や、論文でとてもここまで書けないというものでしたので、できればもう少し市内の学校に、県の規定にも沿うよう統一して共有していただければ、そのような作品がもっと上まで行くことができるかと。ぜひ来年以降そのような指導をしていただければと思います。よろしくお願いします。

樋口教育指導課長 貴重なご意見ありがとうございます。市の出品の段階で県の出品までを見通して要項等を確認するよう、しっかりと周知して参りたいと思います。ありがとうございました。

竹田委員 私も今回初めて参加させていただいたのですが、非常にユニークな作品から質の高いものまであってびっくりしました。高津委員から報告があったのですが、私は教育長賞と科学館長賞の作品を主に見ていたのですが、県に出展したものがその後どうなったのかと疑問に思っていたので、できましたら今回の結果も、次回以降も報告をいただければと思います。これは要望になります。よろしくお願ひします。

樋口教育指導課長 ありがとうございます。県の出品に関しての結果については現在集約中ですので、今後、報告等をする機会をまた検討して参りたいと思います。

竹田委員 ありがとうございます。

### 報告事項(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

磯野教育長 報告事項(3)「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について」、教育センター所長、教育指導課長の順に説明をお願いいたします。

川名教育センター所長 報告事項(3)「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について」報告します。

今年度の調査は、4月19日に市内小学校107校の6年生約7,400名、中学校54校の3年生約6,900名の児童生徒を対象に行われました。

教科に関する調査は国語、算数・数学、理科の3教科で、理科については3年に一度の実施となります。問題内容は毎年変わっています。また、児童生徒、学校に対する質問紙調査も併せて実施され、調査結果については、文部科学省から7月21日に公表されています。

それでは、要点を絞って報告します。

初めに、教科に関する調査の結果についてですが、資料の5ページ「2 教科別結果概要」をご覧ください。

(1)は全国平均正答率との比較で申し上げます。

本市の小学6年生の学力の状況は、国語、算数は1ポイント、理科は2ポイント上回っています。中学3年生の学力の状況は、国語は同等で、数学、理科ともに1ポイント上回る結果でした。

6ページから8ページの(2)正答数の分布は、全国とほぼ同様の山型となっています。上位層については、全国平均よりも少し高い傾向が見られます。今後は各教科の結果分析の結果を参考



に、下位層と中位層の引上げを図るよう、各学校に働きかけていく必要があります。

9 ページからは、(3)として全国平均と各学校の正答率の差が令和3年度と比較して向上または低下した学校を載せています。小学校は実施数が40人以下、中学校は80人以下の小規模校については、調査母体による影響が顕著であるため、公表していません。

小学校、中学校ともに国語は向上した学校が多く、算数は昨年と同等、数学は低下した学校が多くなっています。

向上した学校には、学力向上に関する日常的な取組みについてアンケート調査を実施しました。10ページからがその回答です。

各学校の取組としてICTの活用、学力向上アクションプランを基にした授業改善、朝学習の充実、理科専科、理科・理数サポーターの指導等、参考になる内容が多く挙げられています。

次に、児童生徒の質問紙調査の結果です。

14ページ「3 質問紙調査結果概要」をご覧ください。

特に顕著、また、学校教育に活用していく部分について抜粋しています。小・中学校の回答率を比較しやすくするため、同様の設問に対して結果を並べて示す形式にしています。

まず、「自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識」に関する質問事項です。「1 自分には、よいところがあると思うか」への肯定的な回答率は、令和3年度は千葉市、全国ともに落ち込みましたが、令和4年度はどちらも上昇しています。今年度、千葉市は小・中学生ともに全国より1.9ポイント低いですが、昨年度より小学生は2.7ポイント、中学生は2.4ポイントプラスとなりました。

15ページ「3 将来の夢や目標を持っているか」については、小学生では肯定的な回答が約80%で全国と同等、昨年度よりは0.4ポイント下降しています。中学生は約65%で全国より2ポイント低く、昨年度より0.1ポイントの下降です。

続いて、16ページ、「ICT機器の活用に関する意識」です。

「5 5年生まで（中学校は1、2年生）に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」の週1回以上の割合は、小学校で82.5%、中学校で74.5%と全国よりも低いものの、昨年度より小学生52.3ポイント、中学生5

1. 1ポイントと大幅に向上しています。

17ページの6、7が昨年度の設問を2つに分けた設問、18ページ、8が今年度新しい設問となっています。「6 調べる場面ではICT機器をどの程度使っているか」については、小・中学生ともに約7割から8割近くが週1回以上からほぼ毎日という回答で、全国平均と大きな差はないことが分かります。

一方、「7 友達との意見交換」や「8 自分の考えをまとめ、発表する場面」では、週1回以上の使用は小学生が4割程度、中学生は3割程度と低く、特に中学生において全国平均を大きく下回っています。4月段階の調査であるので、その後、活用が進んでいることとは思いますが、調べ学習以外のICTの効果的な活用を早急に進めていく必要があると考えております。教育センターでは、指導主事が各学校に活用支援に出向くなど対策を始めています。

「主体的・対話的で深い学びに関する意識」の20ページ、「11 課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」については、小・中学生ともに全国平均よりやや低く、昨年度より小学生は0.4ポイント、中学生は0.6ポイントとやや下降しています。

新設問の「12 自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動を行う」は、肯定的回答が小・中学生ともに6割を超えていますが、全国平均より3ポイント程度低く、主体的に取り組む、新しいものを創り出すといった部分に課題が見られます。

「13 話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすること」については、肯定的な回答の割合が昨年度よりも小学生は1.9ポイント、中学生は1.0ポイント向上しています。児童生徒が学習の目標や課題意識を持ち、自身の学習状況を把握しながら解決に向けて取り組むことができる「主体的な学習」となるよう授業改善に努めたり、各教科の学習の中で対話的な学びを意図的、計画的に取り入れたりすることが必要です。

「家庭での学習に関する意識」では、22ページ、「16 学校の授業時間以外に、普段（月～金）2時間以上勉強する」という児童生徒の割合は、全国平均より小学生は5.8ポイント、中学生で6ポイント高くなっていますが、この回答には学習塾等で勉強している時間なども含まれています。「学校以外での学習を

全くしていない」と回答する児童生徒の割合も、小学生は全国に比べて0.8ポイント、中学生は0.7ポイント高く、学校以外の時間に学習をする児童生徒と、しない児童生徒の二極化の傾向が今年度も引き続き見られています。

23ページ、「17 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1時間以上読書をする」という児童生徒の割合は、全国平均を上回っています。また、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は特に中学生が全国平均よりも低く、読書を行っている児童生徒が多いということが分かります。

新設問、24ページの「19 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などするか」では、1日2時間以上の割合が小学生は32.8ポイントで、全国よりプラス0.3ポイントです。中学生は55.9%で、全国よりプラス3.9ポイントです。中学生の6割弱が2時間以上視聴しています。健康面や生活時間のバランスを考慮し、適切にICT機器を使用できるようにしていくことが必要です。

分析については以上です。

今後の取組みにつきましては、教育指導課長に代わります。

樋口教育指導課長 教育指導課としましては、児童生徒の確かな学力の定着を図るため、次のような取組みを通して授業改善を推進して参ります。

まず、市内小・中学校において、全国及び千葉県学力状況調査の結果等を基に、自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行います。その際、課題に応じた資質能力の育成や発達段階に応じた具体的な取組みや指標を立てる等、全職員で共有し、検証と改善を重ねながら実践して参ります。

次に、結果分析を受け、各教科の課題と改善策、指導のポイントを示したリーフレット「指導改善に向けたポイント」、また「授業改善のすすめ」、このようなものを作成し、校内研究での活用を促すとともに、研修会などの指導に生かして参ります。

また、各学校への訪問指導の機会を生かして、主体的・対話的で深い学びの実現のため、自らの発想を広げるような授業づくりについて助言したり、タブレットPC、ギガタブ等を活用した意見交換や、自分の考えをまとめ発表したりするなど、具体的な活用場面を想定した好事例集を作成、提示するなど、指導改善につ

なげられるよう支援して参ります。

さらに学力向上には家庭学習の習慣も欠かせないことから、教育センターと連携し、「教育だよりちば」やウェブサイト等を通して、家庭学習の大切さや家庭での児童生徒の望ましい生活習慣や、スマートフォンの正しい使い方等について、保護者に発信して参ります。

自己肯定感、将来の夢や目標に関する項目については、教育委員会各課と連携し、自己肯定感を高めるような指導方法の工夫や、自らの将来について考え、夢や目標を持つことができるような教育活動が図られるように支援して参ります。

また、地域との関わりに関する項目については、児童生徒が地域に関心を持つことができるよう地域の様子を調べたり、地域の人と関わったりするなど、地域の様々な資源を生かした活動の充実が図られるよう各学校に助言して参ります。

このような取組みを通して、千葉市児童生徒の学力の向上をさらに図って参りたいと思います。

報告は以上です。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

藤川委員 ご説明ありがとうございました。感想を申し上げたいと思います。今回は、成績自体は非常にいいということで、先生方の丁寧なご指導のおかげで、一定の成績になっているのだろうと理解しました。

他方で、先ほど丁寧にご説明いただきましたが、17ページ辺りのICTの活用で調べ学習はある程度やっているが、意見交換や発表ではあまり全国に比べると使われていないということが確認されています。これはせっかく頑張ってギガタブの活用を進めることに関わっている立場としては、少し残念に思っています。

各学校の取組みを読ませていただいても、もちろん積極的に意見交換等に取り組んでいる学校もありますが、多くが基礎、基本の徹底を強調されています。もちろん基礎、基本の徹底は重要なのですが、そこばかりが学力向上というような偏りが生じてしまいますと、やはり主体的・対話的で深い学びやICTを通じた意見交換、発表など、今、新たに強く求められているような取組みが弱くなるという恐れがあるのだろうと思っています。

やはり、ずっとわかる授業ということがテーマとして、千葉市の取組みを進められてきたわけですが、わかり合う授業や伝え合

う授業など少し違う考え方も打ち出していかないと、どうしても基礎、基本の徹底を中心として丁寧に学力を維持していくという、そのような発想ばかりが前面に出てしまって、新たな取組みを進めようという動きが抑制されてしまわないかということをお心配しています。ぜひ中長期的にどういう方向で学力向上をしていくのかについては、さらに検討していただきたいと思います。

以上です。

樋口教育指導課長 ご意見ありがとうございます。ギガタブの活用については、やはりどのような資質能力を育成するための活用なのかという視点で、活用していくことが非常に重要だと考えています。特に知識技能を高めるという部分での活用、これは大変多くの活用が見られるようになっていきます。

一方、思考力、判断力、表現力を高める、また、主体的に学習に取り組む態度というところの向上を図っていく、このような視点での活用を見ますと、やはりまだ課題があると考えています。そのため、どのような視点、能力を育てていくのか、特に先ほど申し上げました思考力、判断力、表現力を育てる、主体的に学習に取り組む態度を育成する、ここのような視点での活用を今後、促していくように指導して参りたいと考えています。

高津委員 ICT機器の活用、子どもたちの活用の状況そのものは、先生方の指導内容に関わってきますので、より一層の指導の向上に努めていただきたいと思います。

1つ、読書について、千葉市は全国と比べても読書が好きかどうかは大して変わらないのですが、中学生において、読む量がかなり違ってきます。中学生は「全く読書しない」との回答が少ないといっても31.5%います。全国の状況がよく分からないのですが、例えば今、千葉市は全校に図書館指導員を配置していますし、それから多くの学校で中学校は朝読書をしています。図書館指導員が図書館の整備やあるいは読み聞かせなど、読書についての喚起を促しているというのが非常に大きいのではないかと思います。

そこで今、朝読書をしている学校が多いと思うのですが、朝読書は毎日毎週10分から15分行って、これを読書時間に含むと、全く読まないということにはならないので、恐らくは含めていないのだと思いますが、朝読書はどのように扱っているのでしょうか。

樋口教育指導課長 ご意見ありがとうございます。実はこれは朝読書も含んだ読書の時間です。朝読書の設定に関しましては、各学校少しずつ考え方等も変わって参りまして、例えば学力向上のほうにシフトしていく必要があると学校の課題として捉えたところは朝の時間を、例えばドリル等の時間を増やすことに活用したり、あるいはタブレットが導入されたことでタイピングの練習の時間に活用したりするなど、朝の時間の使い方が少しずつ変わってきたという傾向もあります。その影響が若干あるのかと解釈いたします。

高津委員 ありがとうございます。

大山委員 9ページの学校ごとの比較のところですが、昨年と比べたところ、向上したところが生浜小と生浜西小と生浜東小、これ全部同じ中学校地区のところ、また、みつわ台北小とみつわ台南小もかなり上昇しています。これは偶然なのか、それとも中学校の下にある小学校の単位で勉強会などをして、情報交換をして成績アップしているのか、非常に気になったのですが、教えていただければと思います。

樋口教育指導課長 中学校地区で学力の傾向と情報交換をしているのは確かです。ただ、それがそのまま学力向上につながっているのかというと、それは難しい点があると思います。これはご指摘いただいた各学校の事例については、昨年度と比べて向上があったということですので、子どもたちの母体も違っているということと、また問題も違いますので、そのようなところでその地区がなぜ向上したかの理由までは、はっきりと分析ができていないところですが、申し訳ありません。

大山委員 ありがとうございます。逆にそのように同じような地域で何かをやって成績が上がっているのであれば、それはすばらしいなと思ったので聞きました。ありがとうございます。

竹田委員 5ページのところで教えていただきたいのですが、調査内容で「知識」「活用」を一体的に問う問題とあるのですが、なぜA問題とB問題に分かれているのかと疑問に思いました。一体的に問う問題、「一体的に」というとAもBもないような気がするのですがけれども、このA問題、B問題というのはどのようなものですか。

樋口教育指導課長 今のご指摘の点について、平成30年度までは全国学力調査テストがA問題とB問題に分かれておりました。A問題が知識、理

解に関すること、B問題がその知識、理解を活用して解く問題と、問題の質、内容が違っており、そのA問題とB問題を両方解くというようなテストでした。令和元年度から知識、理解を問うものとそれを活用して解くものが一体的な問題として、AとBが一つになった問題として、実施をされておるところです。

竹田委員 A問題とB問題は、まだ分かれていますか。

樋口教育指導課長 いえ、今は分かれています。

竹田委員 そうすることなのですね。

樋口教育指導課長 はい。

竹田委員 もう一つ教えていただきたいのですが、「教育だより ちば」に千葉市の学力状況調査結果について出ていました。対象が小学3年生、5年生と中学2年生ですが、それとこの全国調査との整合性についてです。全国調査は小学6年生と中学3年生ですが、それを補完するものとしてやっているのですか

樋口教育指導課長 今、委員からご指摘いただきました小学3年生、5年生、中学2年生につきましては、千葉市の学力状況調査をやりまして、また別の問題で行っております。全国学力状況調査の対象は小学6年生と中学3年生、この2つの学年だけではなくて、ほかの学年についても分析をしていく中で学校の課題、1つの学年だけではなく、複数の学年の傾向から学校の課題を分析していくことが必要だということで、全国学力状況調査と千葉市の学力状況調査、併せた状況で行っているところです。

竹田委員 「教育だより ちば」を見ますと、千葉県との比較もありますよね。ということは千葉県全体で同じようなことをやっているということでしょうか。

樋口教育指導課長 千葉県の中で全ての自治体はそのテストを行っているわけではありませんが、幾つかの自治体で同じ問題を行っていますので、そのような意味で千葉県の正答率と比較して、千葉市はどうかという分析をしています。

竹田委員 私の記憶に消えてしまっているかと思うのですが、そのことに関しては教育委員会会議で報告や説明はありましたでしょうか。千葉市の学力状況調査の説明や資料等で提示は。

樋口教育指導課長 申し訳ありません。この教育委員会会議では市の学力状況調査の結果についてはご説明していませんでした。

竹田委員 それは今後説明される予定はあるのでしょうか。

樋口教育指導課長 検討をして参りたいと思います。

竹田委員 お願いします。なぜかという、千葉市学力状況調査では社会科や外国語もあるので、その辺りも非常に大事なデータだと思いますので、できましたらご報告をお願いします。

議案第39号 千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則の一部改正について

磯野教育長 次に、議決事項に関わる審議に移ります。

議案第39号「千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則の一部改正について」、学事課長、説明をお願いします。

栗和田学事課長 議案第39号「千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則の一部改正について」ご説明します。

本議案は、花見川第三小学校及び花島小学校を統合し、花島小学校とすることに伴う所要の改正を行うため、千葉市教育委員会組織規則第8条第2号に基づき、議決を求めるものであります。

通学区域に関する規則の一部改正については、さきの令和4年第3回市議会定例会で、千葉市立小学校設置条例の一部改正案が議決されたことによるものです。

参考資料の1ページ及び2ページをご覧ください。

統合後の花島小学校の通学区域に関しましては、花見川第三小学区と花島小学区を合わせた花見川1番、2番、8番、9番、花島町、天戸町の一部となります。

なお、通学区域の変更前後の学校の位置と学区の範囲については、参考資料1ページにございます通学区域図をご参照ください。

規則の施行期日は令和5年4月1日となります。

以上で説明を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かありますか。

ご質問ないようですので、それでは議決に移ります。

議案第39号「千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則の一部改正について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決とします。



8 その他

第11回定例会は、11月16日（水）に開催することと決定した。

9 閉会

磯野教育長より閉会を宣言